

鉄道博物館 第6回コレクション展

「鉄道×絵画」の開催について

- 今回、当館が長年に渡り収集してきた資料の中から絵画を中心に選定した、第6回コレクション展「鉄道×絵画」を開催いたします。
- 本展示では、鉄道をモチーフとした絵画の持つ魅力を、美術、歴史、技術などの側面から多面的に紹介します。
- 当館の開館(2007年10月14日)以来、初公開の資料も多数展示します。描いた画家や描かれた風景・時代などとともに、さまざまな姿から読み取れる鉄道の世界をご覧ください。
- 日本のゴッホとも評される長谷川利行の「赤い汽罐車庫」を今回8年ぶりに展示します。

■会 期 2014年3月15日(土)～6月2日(月)

■会 場 鉄道博物館2F スペシャルギャラリー1

■入 場 料 鉄道博物館の入館料のみで、コレクション展もご覧いただけます。

※ 鉄道博物館の入館料は、  
一 般 1,000円、  
小中高生 500円、  
幼児(3歳以上未就学児)  
200円

■主 催 鉄道博物館

■後 援 さいたま市

■展示内容 別紙



■主な展示作品

描かれた対象により「描かれた機関車」、「描かれた駅、車両設備」、「描かれた人々・風景」、「さまざまな鉄道」の4つのコーナーに分けて紹介します。

(※会期中、一部資料の展示替えを行います。)



●西田米次郎 「30号機関車」

1934年 油彩 71.4×59cm

関西鉄道30号機関車「電光(いなずま)」は、深い赤の塗色であったとされる。この作品は実見している機関車研究者の西田氏により再現されたもの。実際の色を表した記録としては唯一の資料となる。



●鍋井克之 「汽車の走る風景」 1929年 油彩 72.7×100.5cm

1930年の二科展に出品するために制作された作品で、米原駅構内の信号場・機関庫と走行する列車を描いている。



●長谷川利行 「赤い汽罐車庫」 1928年 油彩 112×194cm

1929年の第4回1930年協会展に出品された作品で、田端の機関庫を描いたもの。真っ赤な地面や機関庫の煉瓦、黒々とした蒸気機関車が強いコントラストで描かれている。



●長谷川三千春 「電気機関車車庫」 1956年頃 油彩 104×243cm

当時の東京機関区と思われる。中央の緑色の電気機関車はEF58形で、東海道本線全線電化に合わせ、特急「つばめ」「はと」用に塗り替えられたものの試験塗装車である。



●佐々木英夫 「機関車点検」

1934年 油彩

238.4×200.2cm

工場に入場してきた蒸気機関車の修繕作業が描かれた作品。



●藤島武二 「川村竹治肖像」

1932年

油彩 60×50cm

(前期展示予定

※～4/21まで)

川村竹治(1871～1955)は、法律を学び内務省に入省、書記官、県知事、内務次官、南満州鉄道総裁、司法大臣などをつとめた。



●岡田三郎助 「野村竜太郎肖像」

1932年

油彩 60×50cm

(後期展示予定

※4/23～から)

野村竜太郎(1859～1943)は、甲武鉄道の建設工事を担当し、鉄道院副総裁、南満州鉄道総裁に就任。晩年には、東京地下鉄道社長、南武鉄道社長などを歴任した。



●十三川・神崎川・

六郷川鉄橋側面図

明治時代 48×96cm

(前期展示予定 ※～4/21)

明治時代の彩色図面。淡い色彩がほどこされた図面は絵画のようにも見える。